

たわわ

TAWAWA

地域で生きる障害者を支える会通信

発行 2003年6月26日

35号

「地域で生きる障害者を支える会」会報

住所：横浜市港北区下田町6-31-8

活動ホーム「しもだ」内

TEL 045-562-3600

FAX 045-562-5991

会員、賛助会員一人一人の力を集め

自分たちの手と足で築く努力を



雨が少なければそれなりに心配なのですが、梅雨ぞらが続くと、夏の太陽が待ち遠しくもなります。皆さんお元気でお過ごしでしょうか。

重度の障害を持った人達は、体温調節が難しいので、今はとても苦手な季節です。

さて、今年の今ごろは、15年度から実施された支援費について、それによって障害者の生活がどう影響されていくのか....、議論と学習の明け暮れでした。

そして今年も、横浜市福祉局の運営方針のことで、紛糾しています。ニーズが個別化多様化する中で、より身近なところでできるだけ早く、適切に対応できるよう、各区に「分権」を進めようというものです。また、この方針の中で、外郭団体の見直しとして、私たちの活動にもっとも関係の深かった在宅障害者援護協会（在援協）と社会福祉協議会の統合問題があげられてきました。

在援協は、障害者や家族も含めて作り上げてきた横浜の障害者福祉活動を進める上で大きな力となった団体ですし、今も障害者の視点から物事を考え、助言し、障害者団体への市の補助金の助成事業などをおこなっています。この役割がどのように引き継がれていくのか、皆心配しています。

どれも、もっと充分議論して障害者の声を反映してほしいと思うことばかりです。

さて、こんな毎日を送っていると、「たわわ」の編集に向かった時などはむしろ、ほんとにほっとしてしまいます。必要に迫られているとはいえ、多くの方たちと一緒に、力を合わせて新しい願いを実現させようとするのは、なんと素晴らしいことでしょう。そして、各方面のご指導や、ご支援はいただくとともに、基本的には自分達の手で準備し、自分達の足で歩くことを考えていかねばなりません。

それは、困難は伴うのですが、ほんとに地域の中で自然に受け入れていただき、暮らしていくために必要な努力だと思っています。

会員・賛助会員の皆さんの一人一人の支えが集って成し遂げていく事なのです。

悔しがった四戸さん

秋田裕（横浜市総合リハビリテーションセンター）

四戸さんはその時、悔しがってこう言ったのです。「なんでなんだよお。スキーでメダルを取ったのにいッ」

四戸龍英（しのへりゅうえい）さんはチェアスキー選手です。5年前に長野で開催された冬季パラリンピック大会の開会式で選手宣誓をしたので、きっと覚えている方もいることでしょう。でも今日のお話は長野ではなくて、そのまた4年前のことです。リレハンメルでのパラリンピック大会で、四戸さんは回転、大回転の2種目で銀メダルを取りました。冬のパラリンピックでは日本選手初の銀メダル、それも2つ。でも悔しがったのは金メダルが取れなかったからではなくて、その時の新聞記事だったのです。

新聞には、車いすの四戸さんがパラリンピックで2つの銀メダルをとったと報じられていましたが、それが社会面の記事だったので四戸さんは悔しがったのでした。自分はパラリンピックというスポーツ大会でメダルを取ったのに、なぜ社会面に書かれなきゃいけないの！と悔しがったのです。スポーツ選手が万引きしたとか、交通事故起こしたとかだったら確かに社会面でしょうが、車いすの障害者だから社会面、という単純な論理には納得できませんよね。その後、長野大会の関係記事はちゃんとスポーツ欄に載っていましたが、当たり前前のことが当たり前になるまでには、ずいぶん時間がかかると思ったことでした。



ご入会・ご継続ありがとうございます。(敬称略)

《会員》 石立 政文

《賛助会員》 石井正雄 神代孝子 磯村博子 高畠 稔 高畠 誠 吉原ふさ子

《団体》 大原マネジメント研究所

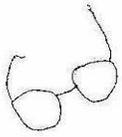
(平成15年6月23日現在)

会員からの一言

1館目の成功の後で、2館目のグループホームの話聞いて、素晴らしいことだと思いました。「最初的一步」から始まったのですものね。

皆さんとお習字を一緒にしていますが、こんど皆さんの自分たちの表現したものを一堂に展示して見ていただく機会が欲しいと思います。

鈴木 玲子



めがねのこえ

今は 障害者も 忙しくなりました。先日も、市の在宅障害者援護協会と社会福祉協議会との 一体化の問題で 在援協の理事長の「私案」の 説明会がありました。障害者たちも 何人も来て さかんに発言していました。

私は ちよっぴりわかったのですが全部はわかりませんでした。いつも母と 会議に行って聞くと その場で聞いただけでは 少しはわかりますが、後で説明を聞いたり見たりしないと十分に理解することは むずかしいです。

こんども 皆が在援協を変えたくないということは わかるし 大変そうだと言うことや 横浜が変わろうとしていることは、わかりました。ただ 私には 理解できないことも多かった。「なぜ わからないのかしら」と思うと とても残念だし 「いつも 母と一緒に会議にも 行ったりしているのにな....」と思うのです。でも 私は、皆の話を聞くのが おもしろいし どのようなことが話されるのか、興味があるのです。

* * *

まえば 障害者が 一人や 二人いてもめずらしがられました。今は たくさんの障害者が活動していて 議論をしたり いろいろ決めることにも 参加しています。そういうすがたを見ると、これからは 変わって行くのかな、ちょっとわからないけれど もっと 良くなるかも 知れないと言う気もするのですが...。 発言を聞いていると、なんだか一層厳しくなるみたいです。

大原友子

平成 15 年度第 1 回総会報告

日時： 平成 15 年 6 月 16 日 (月) 10:30～

議題

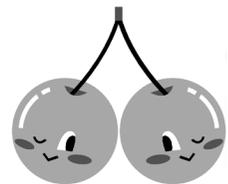
1. 平成 14 年度事業報告について (承認)

主な活動

- ①グループホーム運営支援 レスパイト支援活動
- ②資金作り活動 チャリティーコンサート
- ③情報の発信 「たわわ」の発行、発送、写真展
- ④学習会の実施 ミニ講演会、見学会、定例会
- ⑤その他 「しもだ」の運営委員会、事業委員会に支える会として参加

2. 平成 14 年度収支決算報告について 含・チャリティーコンサート特別会計 (承認)

3. 平成 15 年度事業計画について (承認)



① 二館目活動ホームの設立準備

・ハード面の準備

入居者にあわせて大まかな設計（竣工予定 16 年 3 月）

リハセンターなど関連機関との打ち合わせ→室内の機能内装など細部検討

・ソフト面での準備

職員の採用、養成、ケース会議、関係機関との連携

援助計画の作成

・体験入居の支援

② 資金作り活動

③ 情報の発信

・支える会通信「たわわ」の発行

・重度障害者の表情と生活を伝える写真展

期日 16 年 1 月（6 日間）会場 大倉山「ギャラリーかれん」

期日 16 年 3 月（2 日間）会場 県民サポートセンター（横浜西口）イベント参加

④ 学習会

講演会、ミニ学習会、見学会

⑤ その他

4. 平成 15 年度収支予算案について 含グループホーム第二館目設置準備予算案（承認）

5. その他



今月のよつばホーム

今月も新人職員の紹介です。

はじめまして。5 月より非常勤としてよつばホームで働いています。

門屋 美和子（かどや みわこ）といます。

私は今年の 4 月まで脳神経外科 東横浜病院にて食事介助やトイレ介助、オムツ交換、入浴介助の患者さんのお世話や吸引チューブ交換、手術後の準備、入退院の準備等、看護婦助手のような仕事を 4 年半していました。

ところで、私とよつばホーム入居者との付き合いは、今から 13 年位前のことで、その頃私は定時制高校に通っていたため、昼間の空いている時間に今の活動ホームしもだにボランティアで行っていました。

高校を卒業してからは、休みをとり遠足や旅行等のお手伝いをしていました。

グループホームの職員になり、活動ホームしもだの旅行に行けないのが残念ですが、入居者一人一人の個性を大切に、第 2 館目へと繋いでいけたら良いと思います。

そして、病院での経験と初心を忘れずに頑張っていきます。

